東京ジャーミイ金曜日のホタバ
**2010 年 3 月 26 日**

# 愛情

スリムの皆様。 愛は、ある物やある人に対する強い関心や愛着を表す感情です。それは、敵意を消し、人に人間性を与えそしてその人を高める力です。愛情がない生活は、味気なく無情でつまらない人生ということです。知識人たちは、愛は公正さより優ると出張しました。なぜなら人々の間に愛情が広げれば広げるほど公正さへの要求が減ってきます。公正さとは、情けです。情けという言葉は、半分という意味を持っている「ニスフ」から派生したものです。ある意味で公正さとは、何かの半分を自分の物にして残りの半分を相手に渡すということです。ところが愛情を抱いている人は、愛している人のために自らの権利を放棄します。

そもそも世界の創造と継続すらも愛によるものです。至高なるアッラーの愛と慈悲がなければこの存在は、どうやって表れたでしょうか。人間の内面に秘められた愛情が生まれはぐくまれるためには、まず愛の源であるアッラーを理解することが必要です。このようにして人間は、真の意味で愛されていることや好まれていることを意識します。

ムスリムの皆様。疑いの余地なく、愛には様々な段階があります。最高の段階はアッラーへの愛です。アッラーに愛でられ[1]、そしてアッラーを敬愛する者になるのは、何と幸せなことでしょう。アッラーへの愛は、崇拝行為や服従、そして命令事項を実施し、禁止事項を避けることを要求します。そういった状態にないにも関わらずアッラーを愛していると主張する者は、自分をだましていることに他なりません。愛する者は、愛している者を背向くでしょうか。

人が自分の先生や学者たちに対して持っている愛情も当然高貴な愛情です。確かに師は人々に知識や美徳そして良い僕になる任務を教えます。しかしそれらの中で愛に最も相応しいお方は聖預言者ムハンマド（彼に平安あれ）です。なぜなら彼は全ての先生の師であるからです。「あなた方の中誰でも、私を母親・父親・子供、そして全ての人間より愛しない限り信仰に全うしない」[2]というハデイースを皆様にもう一度思い出していただきましょう。

愛のもう一つの種類は、親と子供の間にある愛情です。親の子供に対する愛情は非常に大きなもので自分の子供があなたより優れていると言われた場合、苦にすることはなく、逆に大喜びます。しかし親に対して子供の愛情は、それより低いのです。そのために子供が親を愛することと情け深く接することに関して聖なる命令があります[3]。

親戚や友達の間にある愛情も、愛のもう一つの種類です。私たちの宗教において親戚の権利を守り、お互いを訪問し、それを継続することは強く勧められています。さらにアッラーのためにお互いを愛し、そのために集まり、そして愛情を持ちつつ分かれる二人（友達）が、終末の日アッラーの影に入れる七つのグループの一つとして数えられていることは[4] 大変注意深いことです

愛のもう一つの種類は、もちろんムスリムとムスリムの間にある愛情です。様々な学者たちは、五回の礼拝を合同で行うことが勧められた理由の一つは、ムスリムたちの間に親友と愛情を齎すためと説明されました。

もっと幸せな生活のために、「愛情を養い、愛情に養われましょう」幸福な社会の構成は、愛情の絆でお互いに結びついている人々によって成し遂げられることを忘れないようにしましょう。本日のホトバを敬愛する預言者のハディースによって終わえたいと思います。「信仰しない限り、あなた方は天国に入れない。またお互いを愛さない限り、信仰したことにはならない。あなた達の間で愛情を広げるものを教えていいですか。セラーム（挨拶）を広げなさい。」[5] 「お互いに贈物をしなさい、そうすればお互いの愛情が深められるだろう。」[6]

---

[1] 第 5 章,54 節.

[2] ブハーリ,イーマーン, 8.
[3] 参照,第 6 章 151 節; 第 17 章, 23-24; 第 31 第 14.
[4] ブハーリ, アザーン, 36; ゼカート, 16; リカーコ, 24; ムスリム,ゼカート, 30.
[5] ブハーリ,イーマーン 7, ティルミズィ, “キヤーマ”, 42; ムスリム, イーマーン, 93; エブーダーウード, エデブ, 131; イビンマージェ, エデブ, 11.
[6] ムワッタ, フスヌル・フルク 16.